

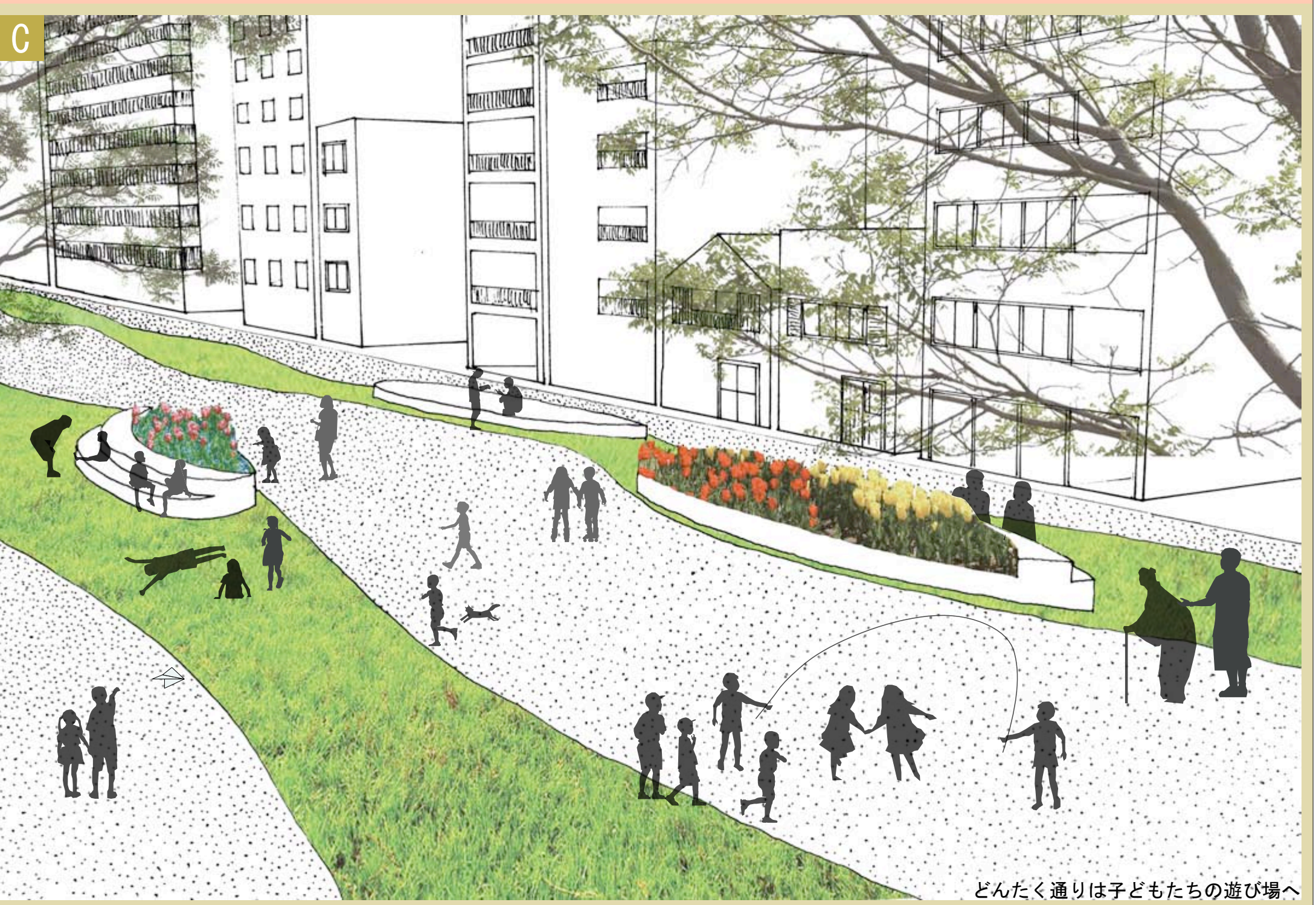
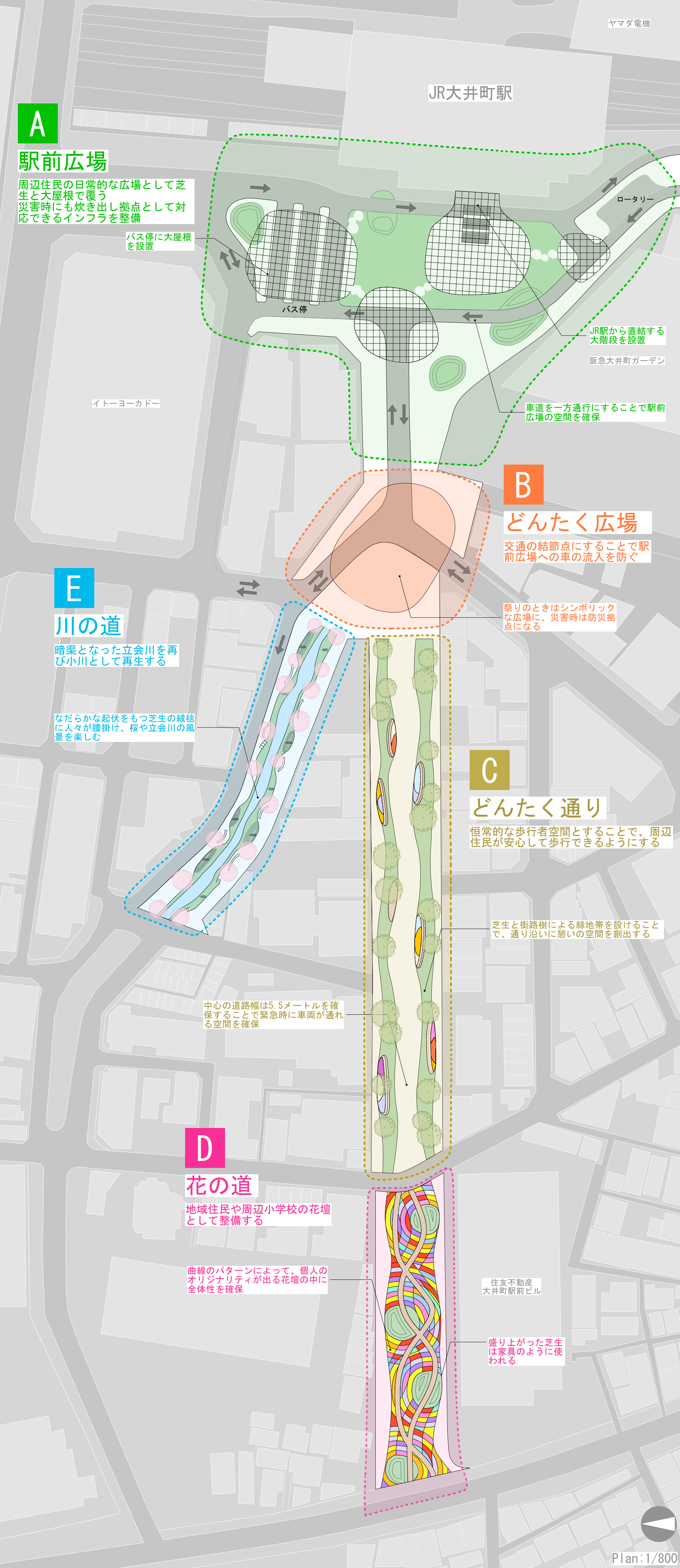
# みんなで咲かせる まちの花

一現状—  
大井町駅西口駅前、ロータリとそこからのびる大通りという空間的なポテンシャルを持つにも関わらず、その大部分が車のための空間です。そのため、人のための空間が少なく、街の賑わいが減ってしまっています。

①ソフトの提案  
街の風景を創る意識を根付かせるために、地域住民が自ら緑を楽しむ空間をつくり、ワークショップを仕掛ける仕組みをバックアップします。緑を育む体験を通して、都市空間を育てていくコミュニティデザインを提案します。

②ハードの提案  
人のための空間を創るために歩車分離を行い、適材適所に大幅な交通整理を行います。さらに、既存の場所の性格に応じて5つのゾーン(下記参照)に分けることで、都市空間に楽しさと賑わい、災害時の拠点を創出します。

<p><b>A</b> 駅前広場 屋根と芝生でつなぐ</p>	<p><b>B</b> どんたく広場 交通広場→ハレの舞台</p>	<p><b>C</b> どんたく通り 恒久的な歩行者天国の実現</p>	<p><b>D</b> 花の道 市民・小学校による花壇の運営</p>	<p><b>E</b> 川の道 立会川の記憶を復活</p>
------------------------------------	---------------------------------------	---	--	-----------------------------------





## 提案要旨説明書

## ■作品タイトル

## みんなで咲かせるまちの花

## ■提案要旨

## 1. 車から人のための道空間に

駅前計画において歩行者空間と交通計画の両立は最も重要な課題です。従来の多くの計画は、大規模な歩行者デッキを設けて歩車分離を図ったり、バス・タクシーロータリと大きな道路によって交通機能に特化した土木構築物などのインフラ整備によって成り立っていますが、そのような画一的なハード設計による景観は、利便性を実現することはできても、街の固有性発見し、人々が愛着を持つことができるような存在にはなっていないのが実情ではないでしょうか。本計画では、住民による継続的なまちづくりのきっかけをつくるために、西口ロータリ、どんたく通り、立会川緑道に合わせて5つのゾーンに分け、植物を通じて人々と場所の関係を創出することを目指します。

## 2. ハードのデザインとソフトのデザインを両立する

駅からのシークエンスを5つのゾーンごとに順をおって説明します。まず1つ目の駅前広場は、大井町駅からなだらかな大階段を設置し、駅から続くどんたく通りへの眺望を確保するとともに、人々がとどまることのできる場所をつくり、さらに、自由曲線によるガラスの大屋根をツタによって緑化することで、屋根下の大階段は夏場は青々とした葉によって日陰の空間となり、冬は葉が枯れることにより程よく日光が差し込む空間となります。地上部は、バスやタクシーなどの駅前を循環する交通をメインとして大幅な交通整理を行うことで大きな広場を設け、大階段と同様に自由曲線による屋根と芝生のデザインにより、道路によって分断された歩道同士に一体感を持たせます。また重大な災害時は、広場を地域の炊き出し場所とするために、ガス、水道等の非常用インフラを整備します。

2つ目のどんたく広場は、どんたく通りと立会道路・光学通りの結節点として交通の中心と位置付け、駅前で調整した駅を通過する交通をここにまとめます。この場所は、平常時は交通広場に、毎年夏に開催されるどんたく祭りではメイン会場として象徴的な場所とします。

3つ目のどんたく通りは、どんたく広場を境に恒久的な歩行者天国とします。旭川の買物公園のように、駅前大通りからの交通排除は既存の通りの空間を生かしながらその性格を抜本的に変革する手段となると考えました。この通りは、どんたく祭りの開催場所であることと緊急車両の侵入を考慮し、既存の広幅員道路による大きな空間を活かして両側にゆるやかな曲線による芝生の緑地帯を設け、子どもたちが安心して遊ぶことのできる連続的な広場としました。

4つ目の花畑はどんたく通りの終着点として、ゆるやかな曲線を連続させたデザインによって花壇を設け、大井町の密集住宅街において、大きな庭を持つことができない近隣住民のための共同の庭とします。また、花畑として細かく区画割りを行い住民や地域の小学校に貸し出すことで、住民によって花壇が運営されるシステムをつくり、自分の担当する花壇で花を育てることが、花畑への愛着を生み、それが連続するどんたく通りへの愛着へとつながることを目指します。

最後に、5つ目の立会道路は、暗渠化された立会川の記憶を復活させるため、桜並木と一体化した親水空間を設けます。立会川は古くから人々に生活用水を提供し、地域の歴史を物語るシンボルであり、暗渠化された当時に比べ、立会川の水質も改善しており、桜並木に人を呼び込むためのランドスケープと一体化することで、水辺のせせらぎに人々が集う場所を生み出します。

## 3. 住民が街を育てること

このように、既存の都市空間の長所を人々の利用に結びつけるために、緑化を軸に性格の異なる5つの場所をつくり出すことで、人々が自ら緑を育てる、緑を楽しむという体験を通して街の風景を担うという意識を持ち、今後の大井町のまちづくりの活動につながるモチベーションを獲得することを期待しています。